

4.地震調査委員会発表の評価概要(国)

平成22年1月1日現在

項目	奈良盆地東縁断層帯	中央構造線断層帯	生駒断層帯	木津川断層帯	南海地震	東南海地震
長さ	約35km	約66~74km	約38km	約31km		
マグニチュード(M)	7.4程度	8.0程度	7.0~7.5程度	7.3程度	8.4前後 (8.5前後)	8.1前後 (8.5前後)
最新活動時期	約1万1千年前 ~ 約1千2百年前	1世紀 ~4世紀	1千6百年前 ~1千年前	伊賀上野地震 1854年	昭和南海地震 (S21.12.21)	昭和東南海地震 (S19.12.7)
平均活動間隔	約5千年	約2千 ~1万2千年	3千~6千年	約4千 ~2万5千年	114年	111.6年
今後30年間の発生確率	ほぼ0%~5%	ほぼ0%~5%	ほぼ0%~0.1%	ほぼ0%	60%程度	60%~70%
わが国の主な活断層における相対的評価	高いグループ	高いグループ	やや高いグループ	—		

() 内に示すマグニチュードは、東南海・南海地震が同時発生した場合のもの

参考

- ①マグニチュードが0.2上がるとエネルギー量は2倍になる。1上がると32倍のエネルギー量になる。
(中央構造線断層帯(金剛山地東縁—和泉山脈南縁)のM8は阪神・淡路大震災M7.3の11.3倍のエネルギー量)
- ②阪神・淡路大震災(野島断層)の発生直前の30年の発生確率は0.02%~8%
- ③相対的評価
高いグループ…今後30年間の地震発生確率(最大値)が3%以上の場合
やや高いグループ…今後30年間の地震発生確率(最大値)が0.1%以上—3%未満の場合
(参考) 文部科学省 地震調査研究推進本部ホームページ
<http://www.jishin.go.jp/>